

1. 定義

※ここで示す「3.」の留意点は、EBPM事例研究会における議論の到達点として記載する参考指標であり、これに義務付けられるわけではなく、むしろこの参考指標を批判的にご検討いただきながら、自らの活動(政策、事業等)に相応しいロジックモデルを構築いただければ幸いです

物理的な建物・構造物（以下単に「施設」という。道路、橋梁、共同溝など）を整備し、恒常的に維持管理を行い、長期にわたり施設利用者への提供を行う行政活動のこと。施設の目的に鑑みて、問題なく施設が利用されるようにすることが成果の核心。システムを導入して効率化する場合もあるが、システム自体は別の型（システム管理型）で整理。なお、施設を利用して業務を行うこと（公共オペレーション）自体はこの型に含めない

2. 特徴 : 静的で見えにくい成果を長期に維持しつつ、外部環境の変動に耐え続けることが本質

- (i) **長期性**……施設の寿命（ライフサイクル）が長いこと又は長くなるようにすること
- (ii) **非顕在性**……事故、崩壊、供用停止（ダウンタイム）がなく、安全であることが重要（日々正常稼働は目に見えない）
- (iii) **環境感応性**……いかなる事態においても施設を利用した活動の継続性を保つこと（レジリエンス）が重要。
また、ニーズや人口等の外部環境や技術進歩等により施設に求められる要件が変動する

3. ロジックモデル作成・見直し時の留意点

※インパクトは、施設管理からは直接は生まれません。施設管理の目的を果たすことで、施設利用者によりポジティブな成果・変化がもたらされ、それを通じ期待される社会への波及効果をインパクト欄に記載・固定

アクティ
ティ

アウト
プット

アウト
カム

初期/短期

中・長期

(対策の具体的中身) (対策の結果、直接の変化が期待される
ターゲットの状態=対策の目標)

(アウトプットの影響を受け、何が変わるのか：時期別)

※施設の整備及び維持管理のために行っている具体的な内容を記載

※自らの実施行為を記載するイメージ (①施設・設備・機械・構造物の点検数、②設備・構造物の補修、補強、更新、部材交換の回数、③共用部清掃、外構維持などの老朽化対策の管理回数、④当初予定した工事の完了率や実施率、整備費支出額)
※施設管理者が適切に維持管理を行うことができ、不測の事態への対応が可能かを記載するイメージ (研修、防災訓練、安全教育)

- ① 《利用者の安全・利便性（使いやすさ）》 利用者が安全・便利・快適になったと思える状態の変化を記載 (満足度、受講者数、入居希望者数・入学者数等)
- ② 《健全性・信頼性の改善（壊れにくさ）》 施設の故障・劣化・停止リスクの低下や健全性の改善につながる状態の変化を記載 (耐震化率、改修等の完了率等)
- ③ 《保全等作業の安定化（止まりやすさ）》 マニュアル化・システム化等により施設管理担当者の作業が改善・安定し、施設価値の維持・向上に結び付く状態の変化を記載 (停止期間の減少、復旧時間の短縮)
- ④ 《環境対応力（戻りやすさ）》 災害時、利用量・技術等の変動時の、異常・劣化の早期発見力、損傷抑制力、早期復旧力の向上につながる状態の変化を記載 (重要業務の選定、BCP計画の策定、教育訓練を定期的実施)

※長期の利用者価値、環境変化への対応等を把握できる指標を記載 (例：利用者の行動変容状況 (利用率・使用率・入居率、快適性・効率性、意識向上割合等)
施設利用に係るシステミックリスクの回避状況 (サービス提供率、機材・設備更新等による維持具合等)、
老朽化リスクの段階的低下 (管理瑕疵件数等) など)
(※多くの場合、持続性・強靱性を示す指標となり得、この欄は固定化)

注 (環境感応性が本質的特徴であるため) 外部要因を排除して各欄を評価することは適切でない